



\*1201100596880\*

雜 53

52

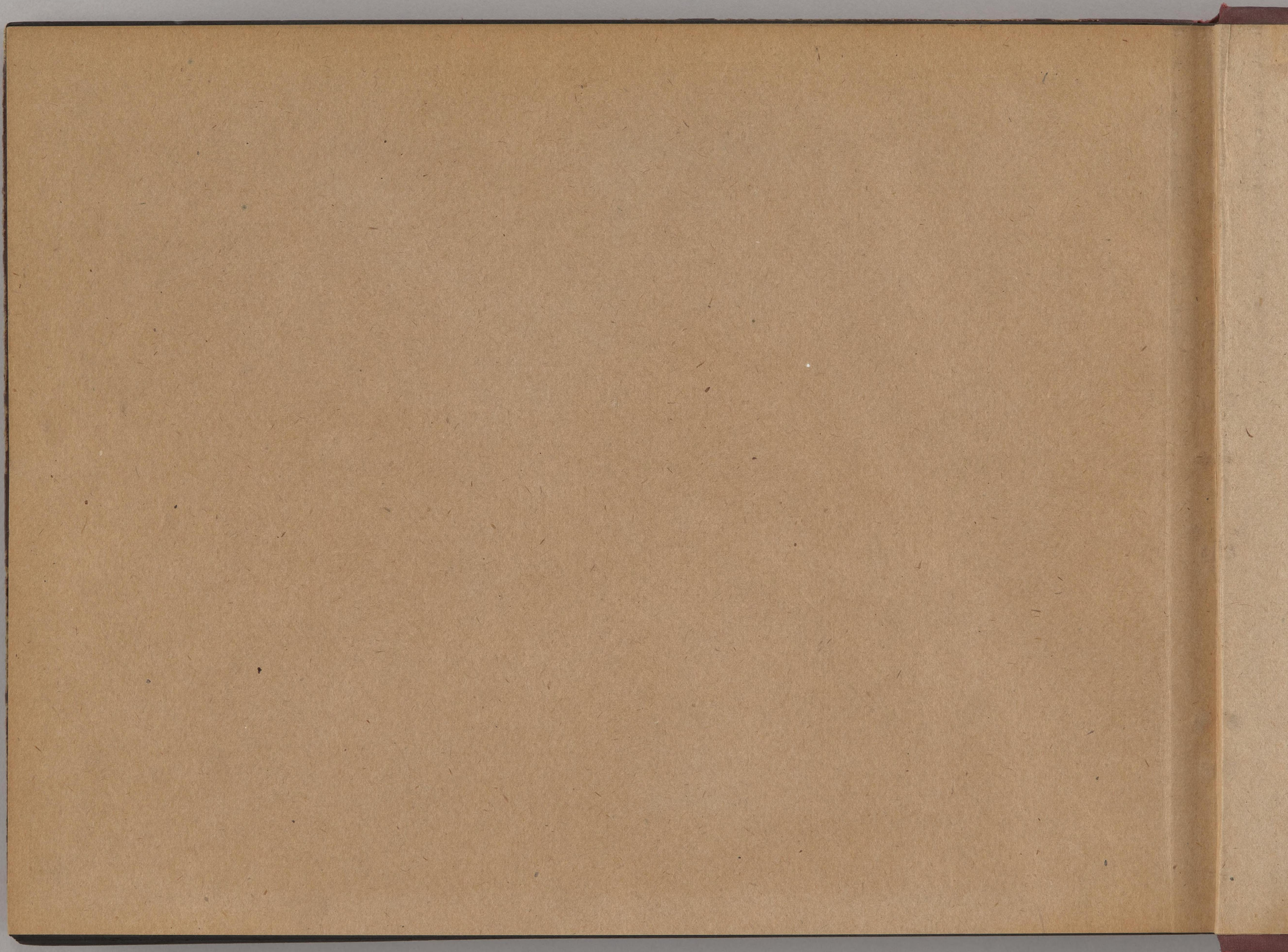
禁電子式複写

E

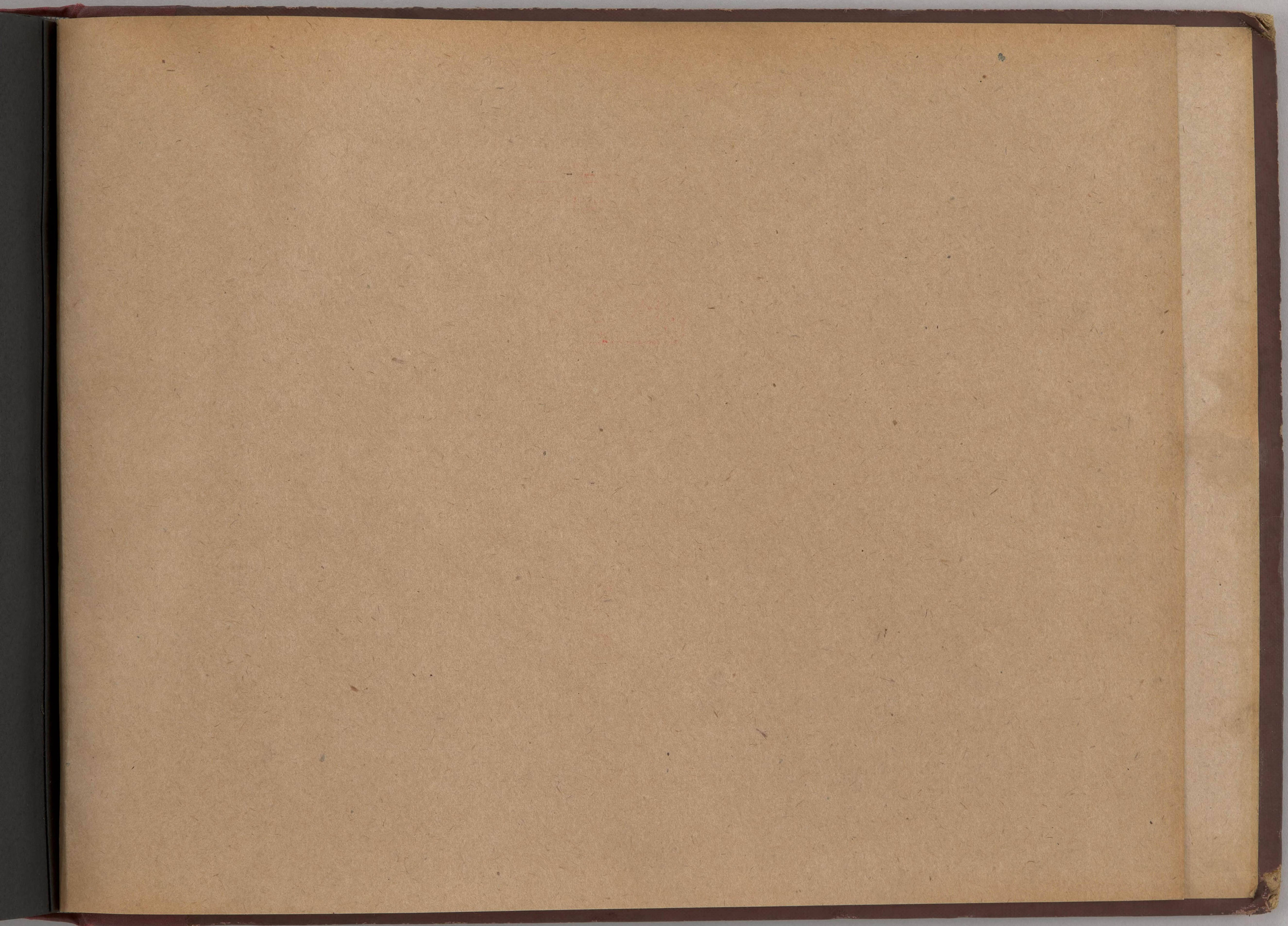








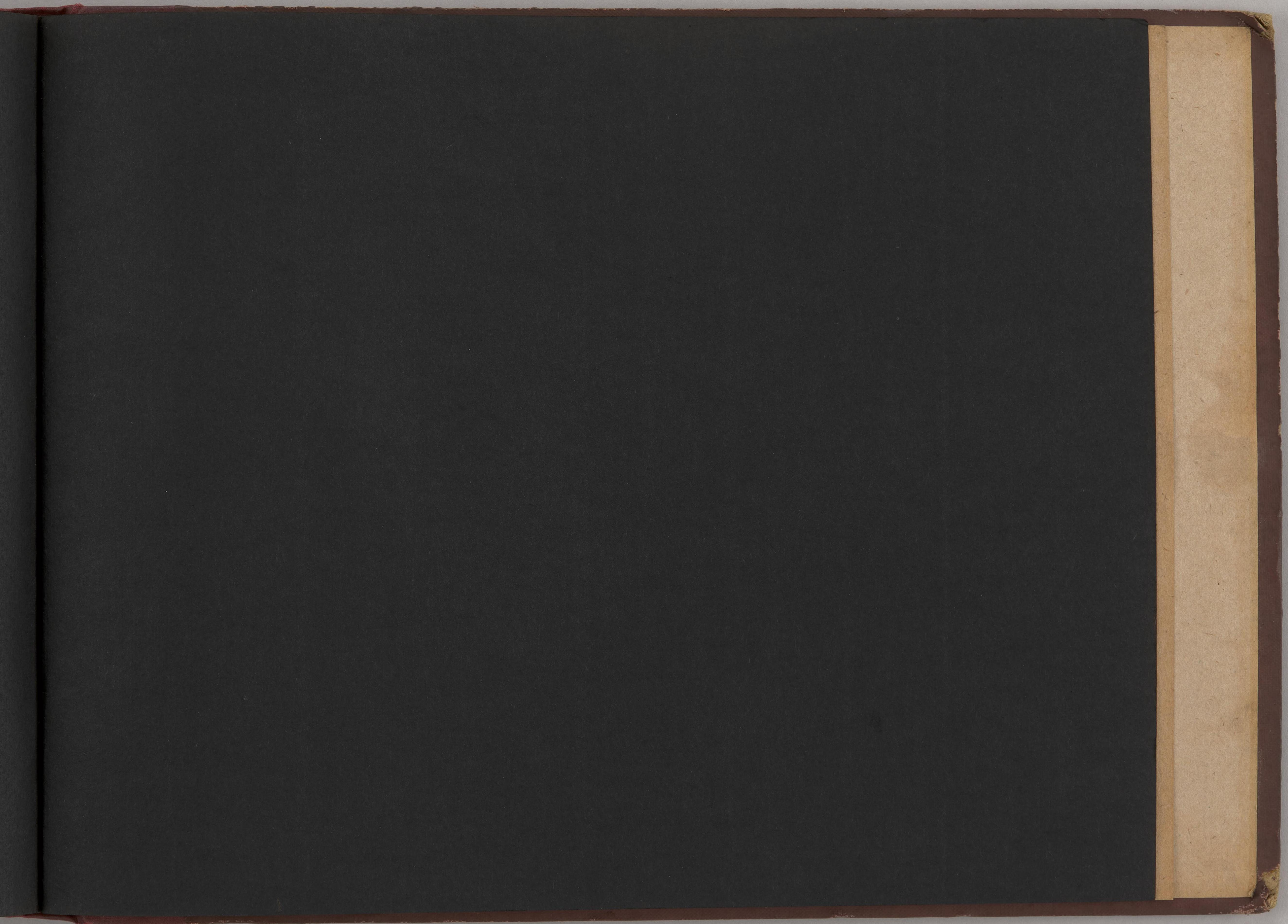




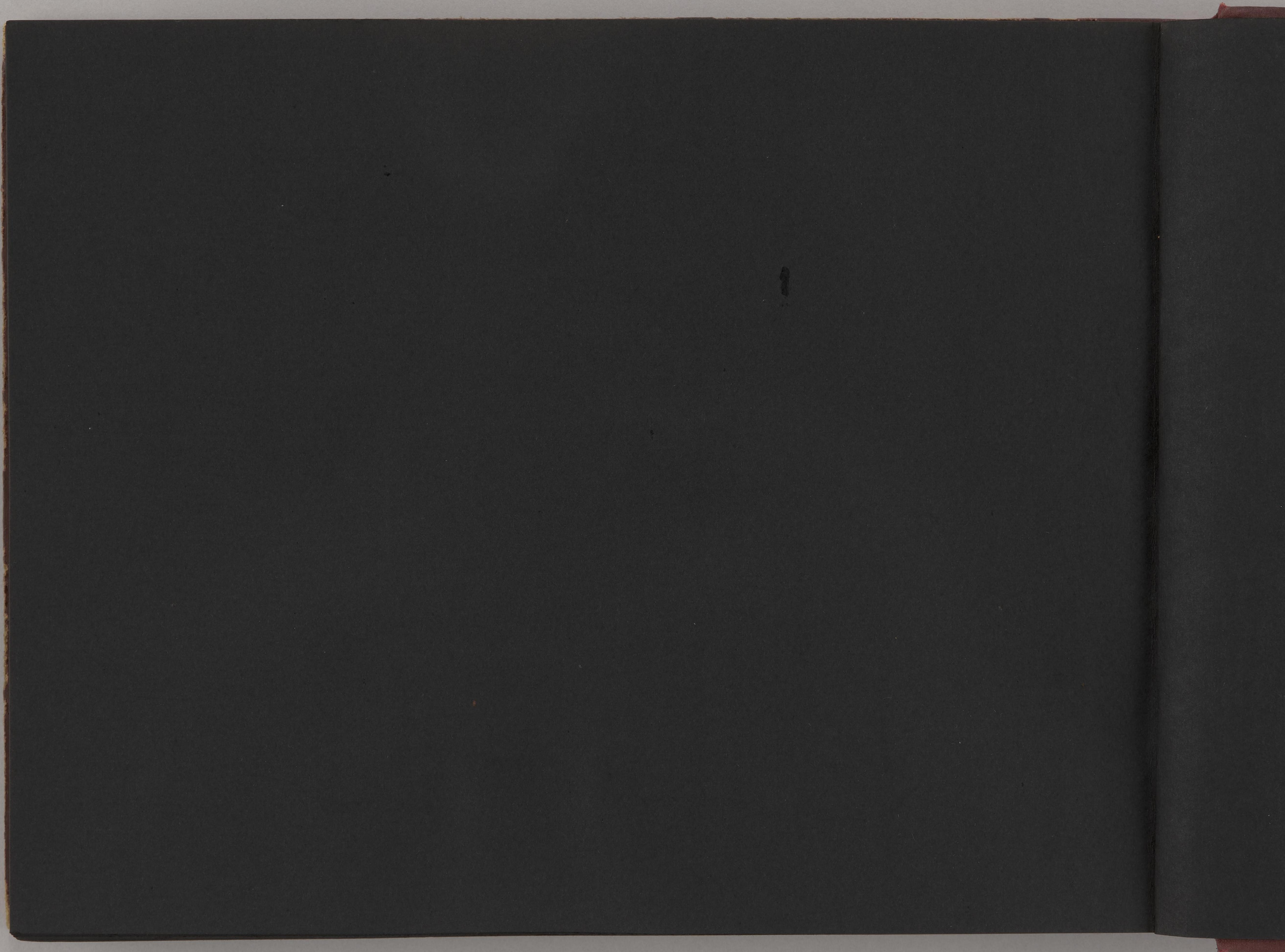














◎先くも行幸を辱ふし  
禮成法五十年式典舉行

（東京）二十三年十一月一日  
明治二十三年十一月一日  
行せられて司法權の獨立を見  
十年に相當する一日天皇陛下  
ては長くも中央法衙たる東京  
幸あらせられた  
御眞は司法省  
玄關にて謹寫







◎明治神宮鎮座記念祭  
明治神宮鎮座記念祭は一日厳かに執り行は  
れた。眞は参進の神宮  
◎神宮体育大會第四日  
体育大會は第四日に入ると共に益々白熱  
化して来た

眞は海軍鎮守府艦隊對抗カッター操選  
(三千米廻航)







◎ 聖上神宮行幸  
天皇陛下には二日午後零時四十五分宮城御  
出門、明治神宮に行幸あらせられ明治天皇  
の御英靈に御親拜、次いで外苑競技場に向  
はせられ國民体育大会の競技を約二時  
間に亘り親しく天覽遊ばされた。  
御寫眞は

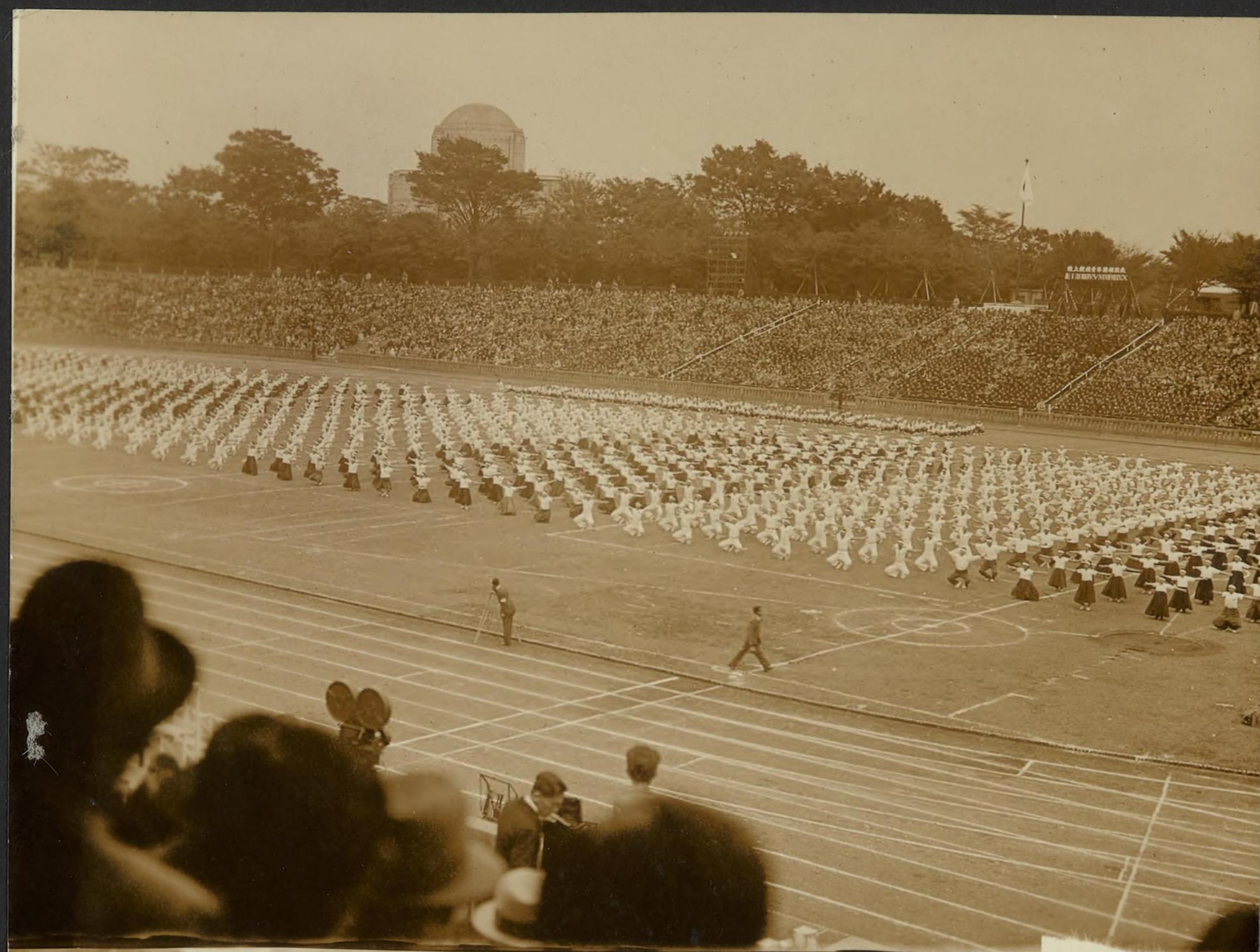
聖上競技場御親臨

學童柔道  
團體体操

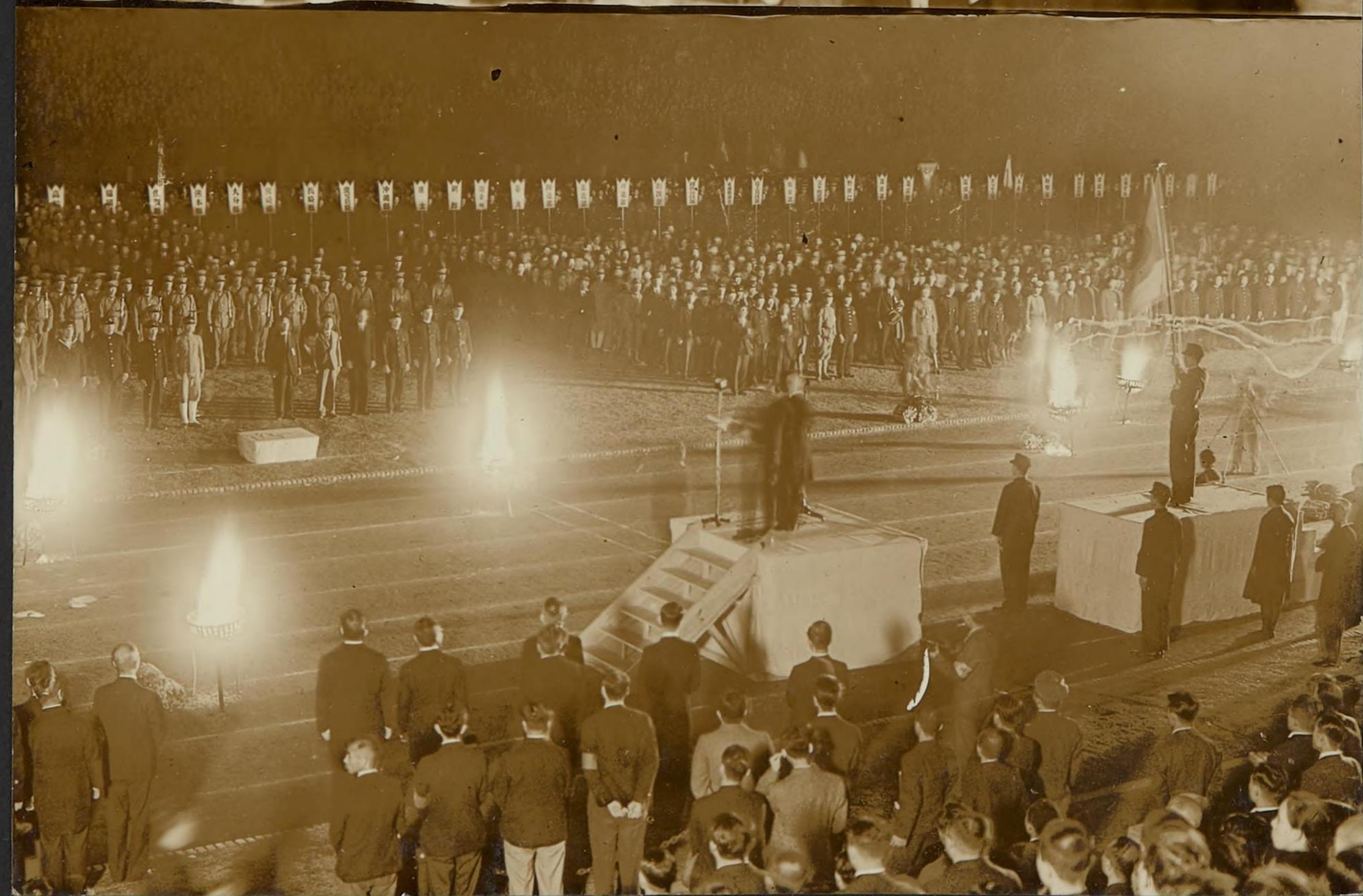












◎明治刷宮競技

一、閉會式入場の選手に御敬禮遊ばされる

秩父宮殿下

一、閉會式全景

十一月三日



◎明治神宮奉納相模

一、男女川の土俵入り

於明治神宮前







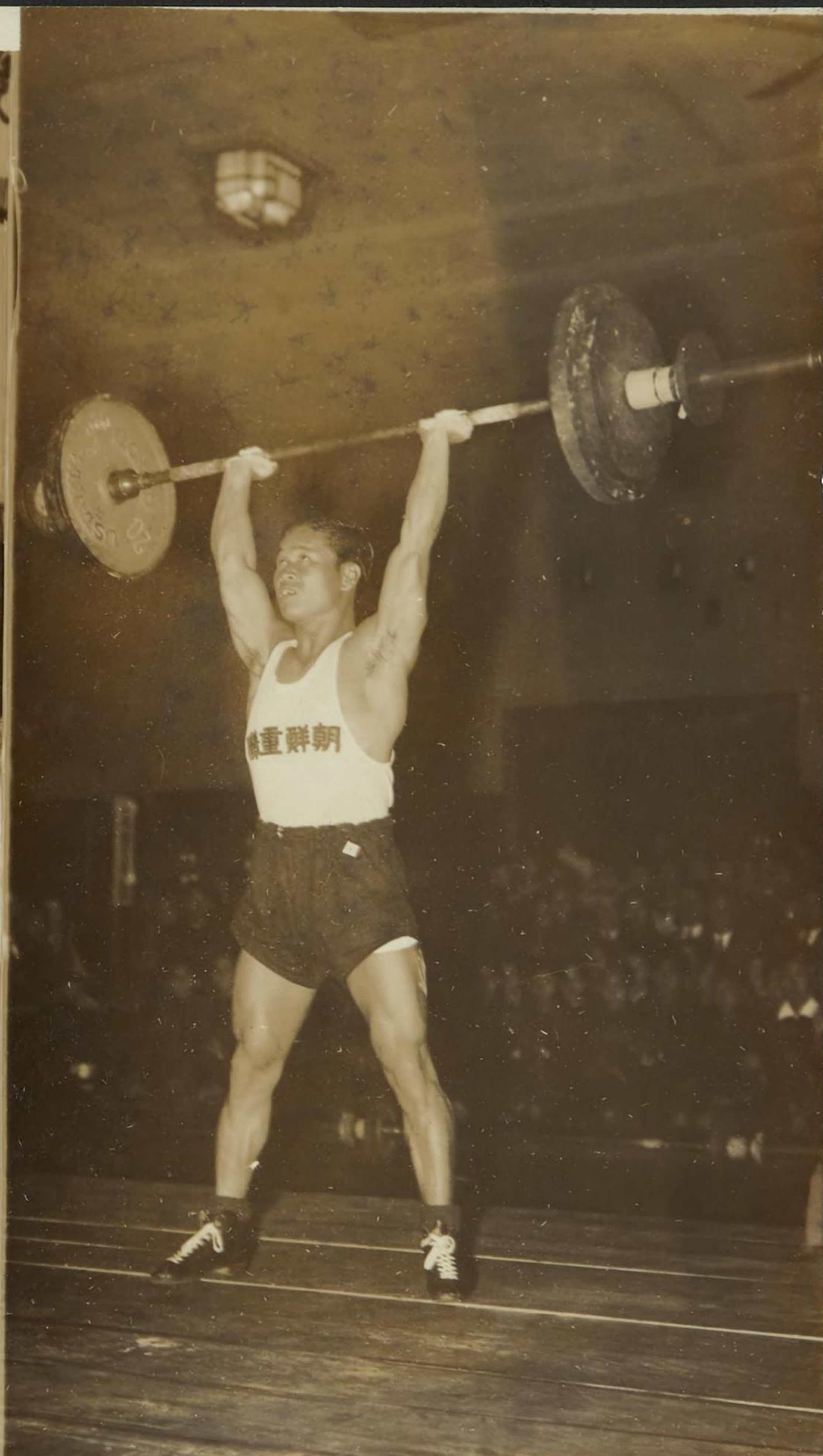
同盟写真 内地ニエー又カ一―四号

◎南(露逸)選手超記録

(東京)十四年十一月三日

重量挙げ才二日は午後五時半から京橋昭和小学  
校に於て畏くも秩父總裁宮の台臨下に舉  
行。大の胆で南選手が自己の保持する押挙世  
界記録(七・五)を断然引離した劃期的大記録  
を樹立した。写真は南選手。



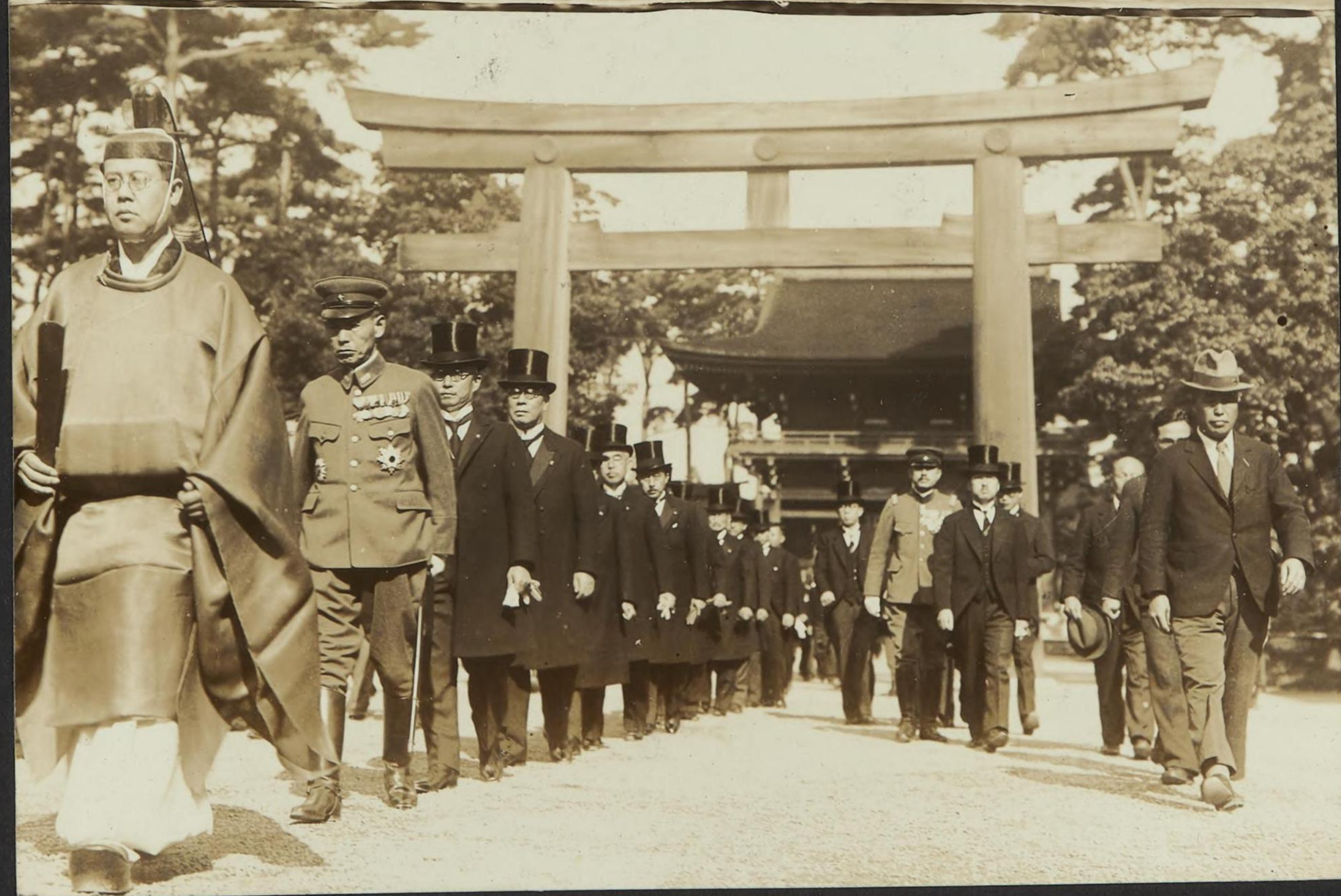




◎勅使参向の下  
明治神宮諸儀執行

明治神宮では三日有馬宮司以下神職が神前に奉仕、神饌幣物を奉り陸軍、商工、内務、司法、農林、拓教、各大臣も着床午前八時廿分に勅使掌典室町公藤伯が幣物を捧じて参向し御祭礼が厳かに執り行けられた。十一時から明治神宮が催された。寫眞は勅使参向、一、参拜の各









◎畑陸相多摩川畔に遠乗り  
平素多忙な畑陸相も週末の四日午後川原  
高級副官を帯同、菅兵器局長、栗林馬政課  
長以下陸軍省高等官五十余名と共に恒例の  
陸軍省秋の遠乗會に乗り出した。  
畑陸相の遠乗り





◎神宮奉納相撲  
（東京）十四年十一月四日  
菊花の薫り高き十一月、明治神宮奉納の相  
撲協會主催全日本力士選手権大會は四日正  
午から外苑相撲場で舉行された  
高良は玉の海（下手ひねり）大和錦



◎外相英大使會見  
日米兩國間の意思疏通の途を開く意味に  
於て四日午前十時、總町三年町外相官邸に  
ル一大使を招致し、奥村秘書官の通譯で同  
十一時十分まで一時間十分に亘つて意見の  
交換を遂げた。  
英使は會見の外相と米大使







◎ 北里研究所廿五周年記念式典

北里研究所が大正三年十月五日ペスト菌  
発見者として有名な故北里柴三郎博士  
により創立され今年廿五周年を迎へた  
ので今日五日午前十時より九時東京会館  
で記念式典が、医学界、医学会其他  
の名士権威等百餘名出席し盛大  
に慶行された。

賓客は北里研究所長の挨拶







◎ 以影再會ニヲ六回秋季大會

内地はあろか朝鮮まで凡そひげと名の  
つくもの、所有者者達が組織して以影再  
會と名づけ親睦をはかつてから三年を経  
たが五日午後一時から六回秋季大會を  
目黒雅叙園に開いた、参集者は頭山翁  
を始め続々両手にひげを捧げたり盛會を  
極めたり、眞尊は雅叙園の親睦會







①

鏡後の羽異五十機の命名式

海軍省主催報國全日本号命名式はカラ  
リと晴れた深秋の五日午後二時かゝ羽田飛  
行場に臨幸行された。命名式は終るや待望  
の飛行作業が公開され粒選りの海の荒  
就島の妙技は數十方の参観者は只手に汗  
を握るばかりで羽田空港は感激に暮れ  
宣七号は荒就島の妙技公開







◎中等學校生の明治神宮奉拜式

(東京) 十四年十一月六日

明治天皇の御聖徳をしのび奉る府下五萬若

人の第九回明治神宮奉拜式は六日午前九時

二十分秋冷の空のもと代々木練兵場で

長くも秩父宮殿下の台臨を仰ぎ嚴肅に擧

行された

御寫眞は秩父宮殿下の御巡閱

◎朝鮮陸軍志願訓練生上京

朝鮮總督府陸軍兵志願訓練所第三期卒業生

三百余名の内地見學旅行團は同訓練所教授

海田要陸軍大佐に引率され六日午前六時東

京驛着列車で入京した。

寫眞は東京驛着の一行









◎駐佛澤田大使出發  
（東京）十四年十一月六日  
新任駐佛大使澤田三氏は六日午前九時東  
京驛發特急つばめで西下。戦亂の任地に向  
け赴任の途についた  
眞は澤田大使を見送る駐日佛大使（右）  
於東京驛





◎白國大使信任狀捧呈  
 新任白耳義國特命全權大使ピエール・フ  
 ルトム氏は六日午前十時吉川式部官の迎引  
 にて宮中に参内、同三十分鳳凰閣に於て天  
 皇陛下に謁見仰付けられ信任狀並に前任大  
 使の解任狀を捧呈、次いで夫人同伴桐之間  
 に参進し皇后陛下に謁見仰付けられ敬意を  
 表し奉つて宮中を退下した  
 寫眞は参内の新白大使夫妻



◎ 聖上泊津行幸

(東京) 十四年十一月七日

長くも大元帥陛下には八日秋氣無然たる富士  
山麓に錦旗を進めさせられ師山演習を天覽、  
御共姿を富士に仰ぎ奉る日を前に七日帝都御  
遊覧、行在所泊津御用邸西附屬邸に行幸あら  
せられた。  
御馬前は宮城御遊覧  
二重橋前にて謹







◎第十一回乳幼児審査會表彰式

日本兒童愛護聯盟主催で去る六月中旬行はれた第十一回全東京乳幼児審査會表彰式が七日午前十時から京橋明治製菓ビル講堂で行はれた。寫眞は表彰された赤ちやん達

◎府青年團中支班歸る

海軍生活を体験するため去る十月三日東京を出發した府青年團中支班一行三十三名は橋本海軍少尉、清水府青年指導員に引率されて七日午前九時三十分東京驛着列車で一ヶ月振りて元氣よく歸つて來た。眞直は歸京の一行 東京驛にて







◎錦旗秋陽に際岳麓の近衛大演習  
（東京）十四年十一月八日  
大元帥陛下には八日長くも錦旗を秋陽に  
岳麓に進ませ給ひ特別師団演習を天覽あら  
せられた。  
御寫眞は

一、李王殿下草狀奏上（山地台）







◎皇后陛下靖國神社に行啓  
長くも皇后陛下には八日午前九時宮城御出  
門靖國神社に行啓、神皇正統記に御拜あらせられ  
た。御寫眞は靖國神社に御拜の皇后陛下







同盟寫眞 海外通信 十四年十一月八日

◎ 歐洲動亂だより

寫眞は

一、北海に活躍する英國海軍掃海艇







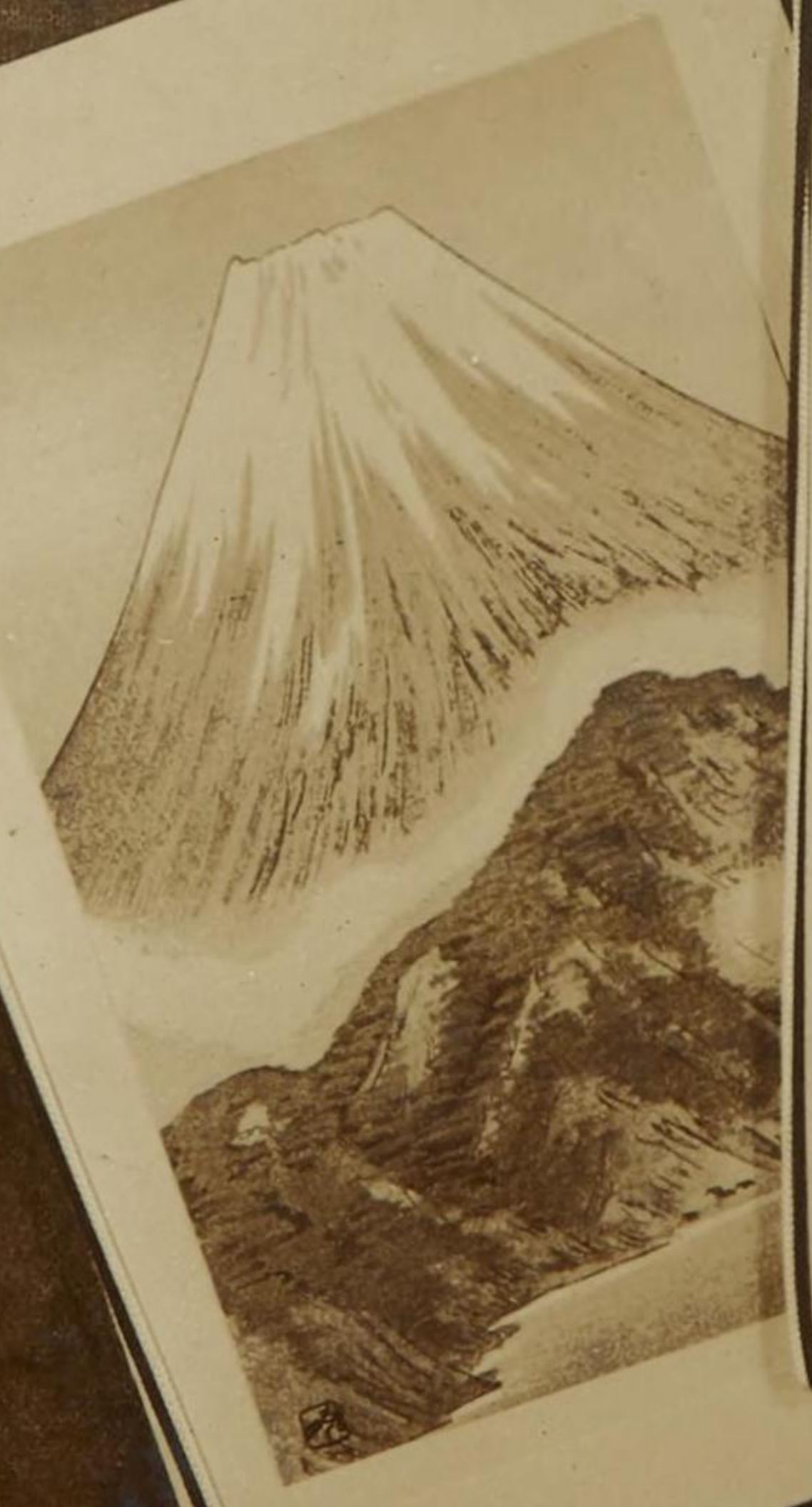
◎御下賜の標巻と靴下  
久遠官倪子大姫殿下には第一線に奮戦せる  
海軍將兵の勞苦をしゝばせられ御親ら御編  
み遊ばされた毛糸の標巻四十五枚、靴下六  
十二足を八日海軍省へ御下賜あらせられた  
馬具は御下賜の標巻と靴下

◎今年のスマスカード  
（東京）十四年十一月九日  
今年もまたクリスマスが近づいたので鐵道  
省國際觀光局では海外知名人士へ濫い日本  
の友情をこめたクリスマスカードを送る  
ことになり八日印刷り木版七度刷りの美麗  
なカードが出来上つた。  
馬具は國際觀光局のクリスマスカード





目錄  
一 襪 卷 四拾九枚  
二 靴 下 六拾壹足  
右  
大紀殿下、思君依、出延  
將士、御下賜、成、服  
昭和十一年八月  
久遠宮







◎水難救済會記念式  
（東京）十四年十一月九日  
創立五十年帝國水難救済會では九日午前十  
時から草人會館に總裁伏見宮博恭王殿下の  
台座を仰ぎ記念式を舉行した  
御氣は合旨を賜ふ伏見總裁官殿下





◎天皇陛下宮城還幸  
 一東京十四年十一月十日  
 皇くも天皇陛下には去る七日宮城御設筆、  
 沼津に行幸八日錦旗を富士の裾野に懸めさ  
 せられ更に静岡縣下の縣治、産業、民情を  
 どもそなはせられ行幸以來四日目の十日御  
 豫定の如く宮城に還幸あらせられた  
 御寫眞は東京驛前にて謹  
 御



同日高良 海外△ニユダス 十四年十一月十日

◎翔ける要差

寫眞は

西部城線へ續々送られる英國空軍の誇るピツ  
カースウエリントン爆撃機







同盟 寫眞 内地 ニース 十四年 十月 十日

◎ ホーランド 独立 記念 日

ける 土日は 才次 歐洲 大戰 休戦 記念 日、才次 勤王 勤  
奮の 渦中 に 滅亡 の 路 を 辿る ホーランド に 取つて は 悲しき  
独立 記念 日 にも ある。この 日 麻布 霞町 の 天主 教會 で  
行はれた 同国 大使 館 の 淋しい 記念 祝賀 の 集り に 特 に  
佛 国 大使 夫人 が 姿 を 見せ 自ら 奏る オルガンの 讚美  
歌 に 故國 の 運命 を 想つて 泣崩れる 波 大使 夫人 に 暖  
い 慰め を 送つた。寫眞 は 前列 右 から 祈禱 する ミハイロフスキー  
波 参事 官、ロメル 波 大使 夫人、ロメル 波 大使、アンリ  
佛 大使。







◎ 庵下の戦士入所式  
戦地で活躍する兵隊さんに栄養良價値の野戦料理を給する庵下の戦士を指導し養生する野戦調理士研究所の入所式は土日午前十時より深川区越中島糧秣本廠内で行はれ、寫眞は市川廠長の訓示。



同盟寫眞 海外Bニュース 十四年十一月十一

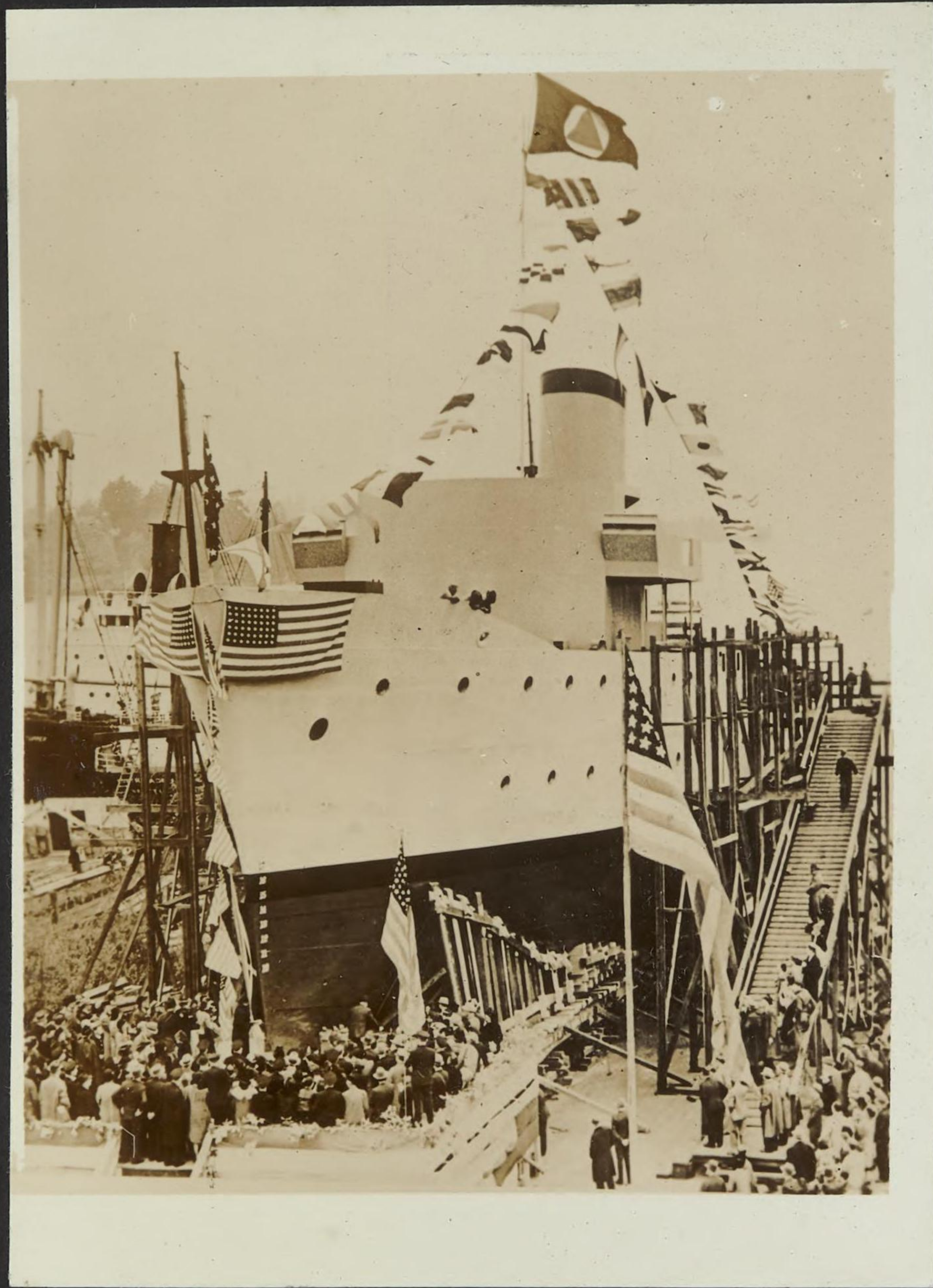
◎ライ博士ポイランド視察

(ベルリン) 従同盟

去る十月中旬ドイツ組織部長ライ博士は獨軍  
占領下のポイランド各地を視察した  
寫眞はポイゼン市街を視察のライ博士(左よ  
り二人目)その左はグライザー軍司令官







◎新測量船進水

(シヤトル) 發同盟

米國海軍の大増強の一翼として去る十月十七  
日新鋭測量艦・エックスプローラー・號がシ  
ヤトル造船所に於いて進水した  
寫眞は・エックスプローラー・號



同遊の真部 十一月十二日

同遊の真部 願寺に佛法講

講草、東本願寺の寺治は十七年の十月  
と百石の総工費を西女しこの程完成  
し七つに十一日午前十時より盛大なる  
入佛慶讃法要を以てし。  
尚ほ此日佛法講







同遊冥真部十一月十二日

◎松尾鉾山慘事

人妻有数の磯黄鉾山岩平敷岩平却松尾村の  
松尾鉾山坑内下十日午三時廿五分頃直隼州一  
の大空に響き共に大拍子、坑内は河白雲此際修  
四能場と化した。  
直隼は死海收口管所前で遺棄者の氏  
名を問わじつ、見下る遺棄者  
下云のを肩に坑内は白ふ救助隊







○鳥院參謀長宮殿下御歸京  
（東京）十一月十三日  
閉院參謀長宮殿下には去月廿三日東京御出  
發上海杭州蘇州南支等中文方面派遣軍の狀  
況を御視察遊ばされ十二日午後五時廿分東  
京驛着かゝりて御歸京遊ばされた  
御寫眞は於東京驛謹寫

○朝香大將宮殿下統後施設御視察  
朝香宮鳩彦王殿下には神奈川縣の統後施設  
御視察のため十三日川崎市、横濱市、鎌倉  
市、高座郡六會村に御成り遊ばされた  
御寫眞は横濱市應召軍人遺家族婦人授産場  
御視察









◎火野平氏  
支那事務が生んだベンの英雄、火野平氏と三井物産は十二日午後三時二十五分東京駅に入京した  
高直は聯頭の基平氏（右は小杉勇氏）





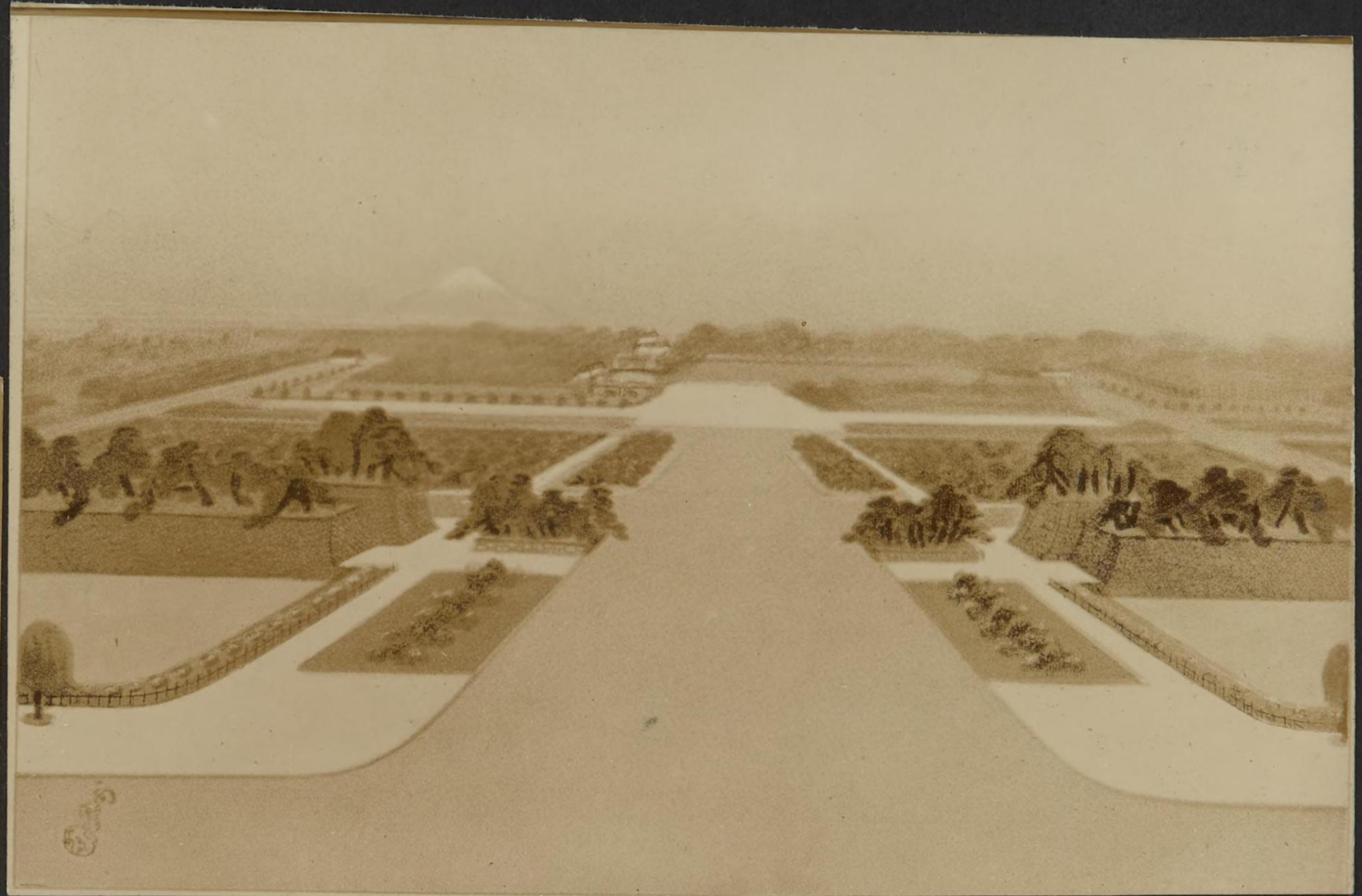
同 園 寫 眞 內 地 ニ ユ ー ス 第 四 十 五 號  
 ◎ 青 少 年 義 勇 隊 陸 軍 拓 務 兩 省 訪 問  
 ( 東 京 ) 十 四 年 十 一 月 十 三 日  
 日 本 青 年 團 に ま ど り か な 故 國 の 夢 を 結 ん だ  
 青 少 年 義 勇 隊 一 行 四 十 七 名 は 十 三 日 宮 城 を  
 遙 拜 し 明 治 神 宮 靖 國 神 社 參 拜 の の ち 陸 軍  
 省 拓 務 省 を 訪 問 し た  
 寫 眞 は 陸 相 の 訓 示 ( 於 陸 相 官 邸 )



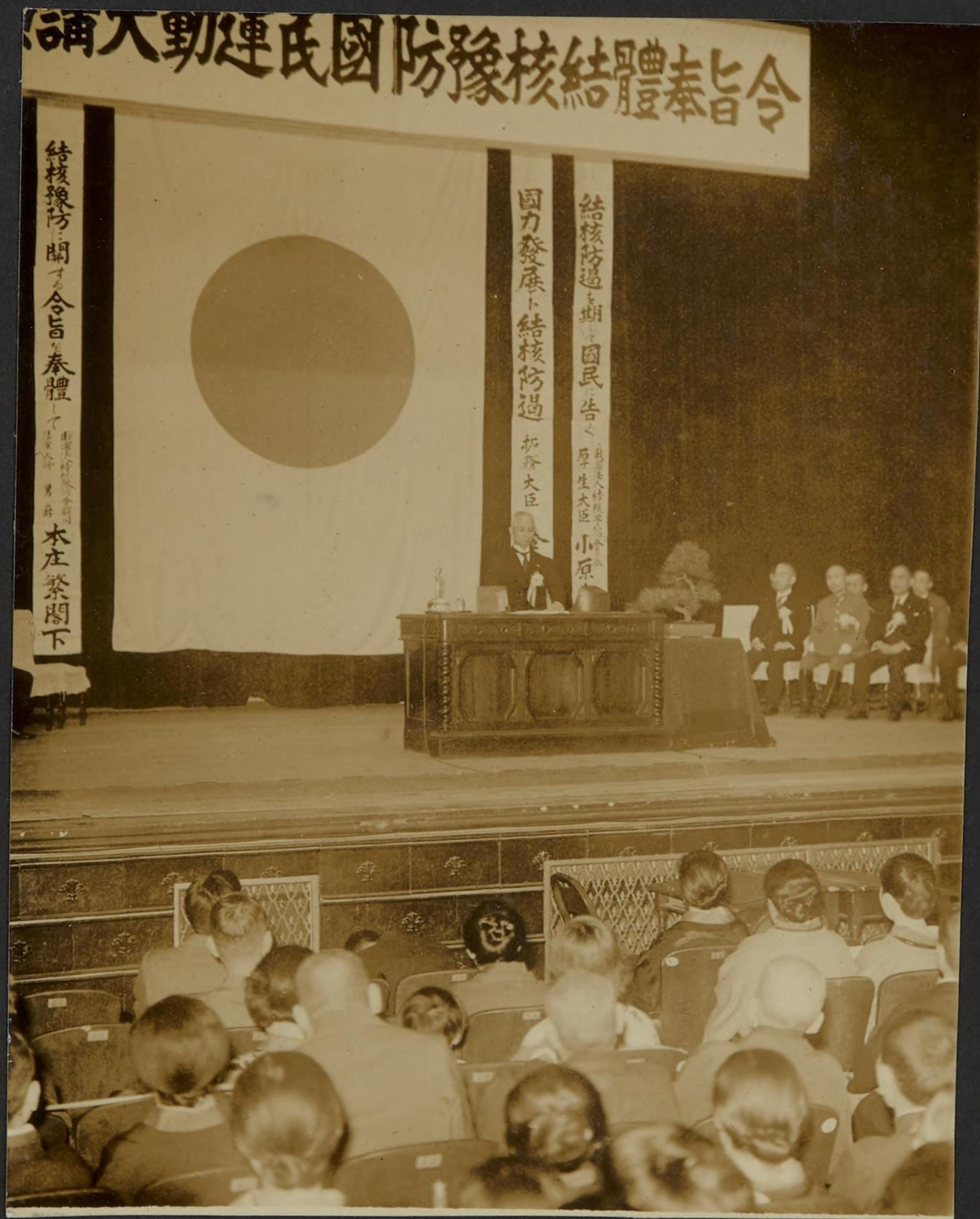


◎宮城外苑整備事業起工式  
 一、東京、十四年十一月十四日  
 紀元二千六百年記念宮城外苑整備事業起工  
 式は、~~皇~~そは降る十四日午前九時から宮城前  
 廣場において、嚴肅に行はれた  
 眞は  
 一、宮城外苑整備起工式  
 一、頼母木市長の御入式  
 一、完成後の馬場先口より宮城を拜する圖



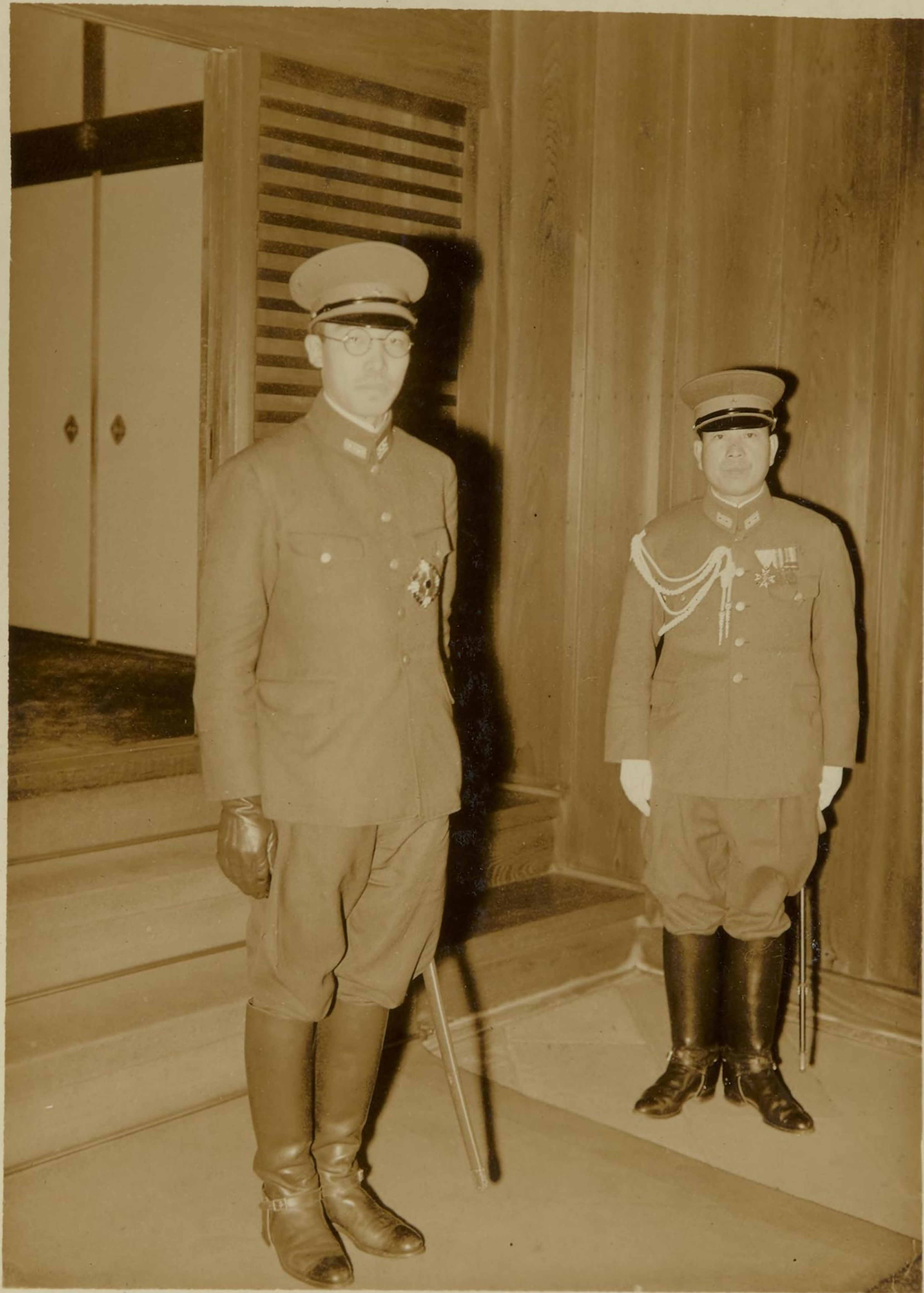






◎結核豫防運動第一日  
 建設戦下國民體力の向上を圖る令旨奉體結  
 核豫防國民運動は官民一致、十四日から十  
 八日までの五日間、一健康日本を目標とし  
 て都市も農村も全国的に結核の大滅源戦を  
 開始、午后一時から日比谷公會堂で小原厚  
 相、金光拓相、長與又郎博士等の講演が行  
 はれた。寫眞は不原厚相の講演





◎東久邇宮盛厚王殿下御歸還  
 ノモンハンに赫々たる御武勳を樹てさせら  
 れ。十四日午前八時半東京驛御着御歸還あ  
 らせられた東久邇中尉宮殿下には午後一時  
 半宮中に御參内天皇皇后兩陛下に御對面御  
 歸還の御挨拶を言上遊ばされ更に大官御所  
 に御伺候皇太后陛下にも御挨拶遊ばされた  
 御寫眞は於御殿誌寫



◎北海附近に奇襲敵の上陸

(東京) 十四年十一月十五日正午

(大本營陸軍部公表十五日正午) 我が陸

海軍の精銳部隊は本十五日朝來荒天を冒し

つつ極めて緊密なる協同のもとに北海附近

に奇襲上陸を敢行し引續き猛進中なり

爲眞は

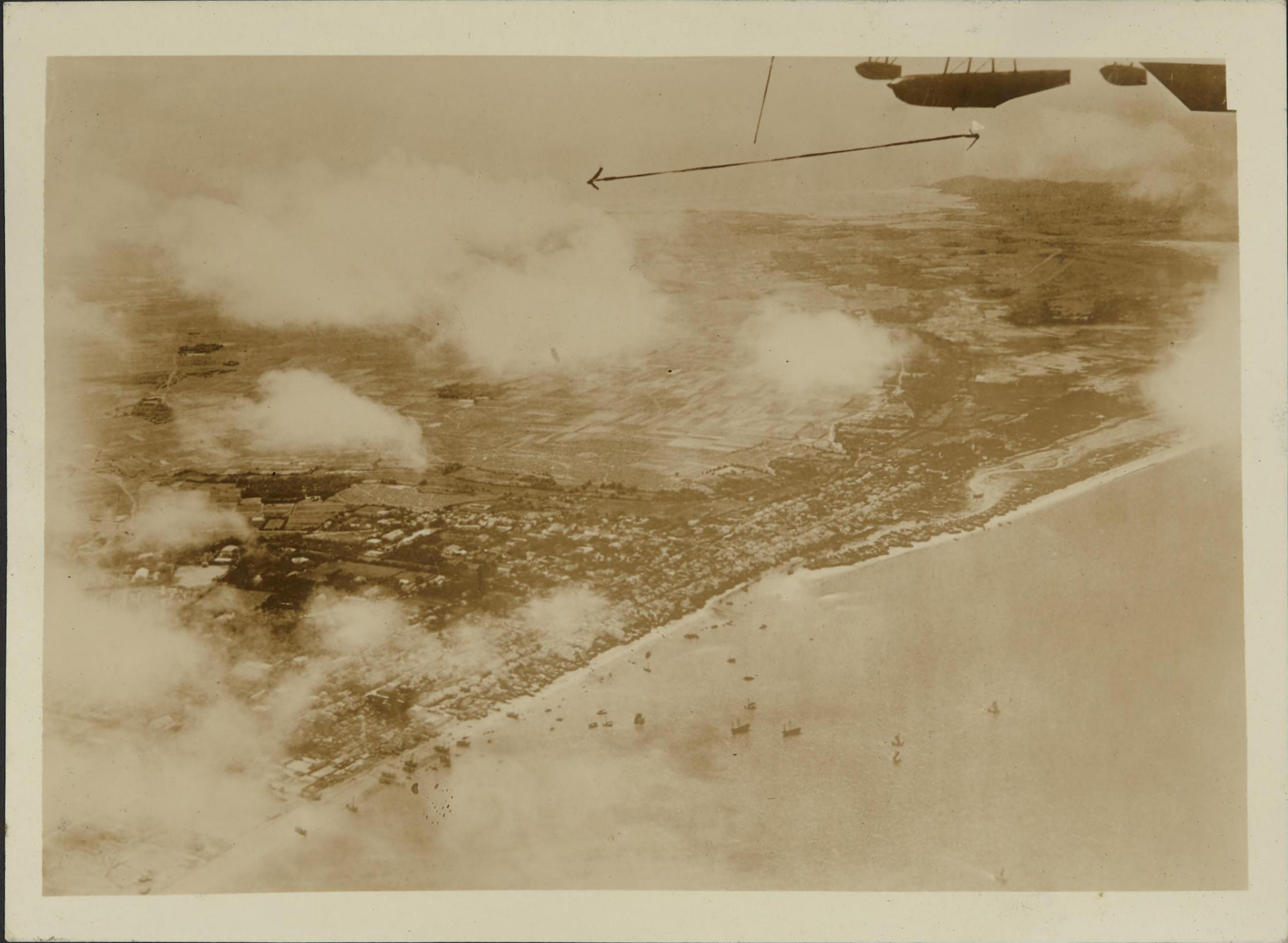
一、北海港(大本營陸軍部貸下)

一、陸軍部福山中佐の發表(於陸軍省)

一、海軍部大熊大佐の發表(左は横山副官)

於海軍省







女子學習院に御在學の照宮様には十五日朝  
神奈川縣櫻井村の二宮尊徳翁の誕生地に成







◎照宮様秋色を探ねて御遠足  
 女子學習院に御在學の照宮様には十五日朝  
 神奈川縣櫻井村の二宮尊徳翁の誕生地に成  
 らせられ翁の遺徳をしのびせられ次いで小  
 田原城跡、石橋山の古戦場等を御見學、秋  
 色の山野に御楽しい一日の御遠足を終へさ  
 せられ御歸還はされた  
 御寫眞は御左より照宮様、久瀨宮正子、朝  
 子、兩女王殿下（尊徳翁記念碑前にて謹寫）



同 鹽 寫 眞 第 五 十 七 號

◎ 鹽 澤 大 將 親 任 式

( 東 京 ) 十 四 年 十 一 月 十 五 日

天 皇 陛 下 に は 十 五 日 午 前 九 時 三 十 分 宮 中 鳳

凰 間 に 出 御 門 部 首 相 侍 立 の も と に 鹽 澤 海

軍 大 將 親 任 式 並 に 平 田 佐 世 保 鎮 守 府 司 令 長

官 高 橋 馬 公 要 港 部 司 令 官 細 登 旅 順 要 港 部

司 令 官 の 各 親 補 式 を 行 は せ ら れ た

寫 眞 は 親 任 式 を 終 へ た 鹽 澤 大 將 ( 於 自 邸 )







同盟寫眞 海外B ニュース 十四年十一月十六日

◎北海浪高し

(ロンドン) 發同盟

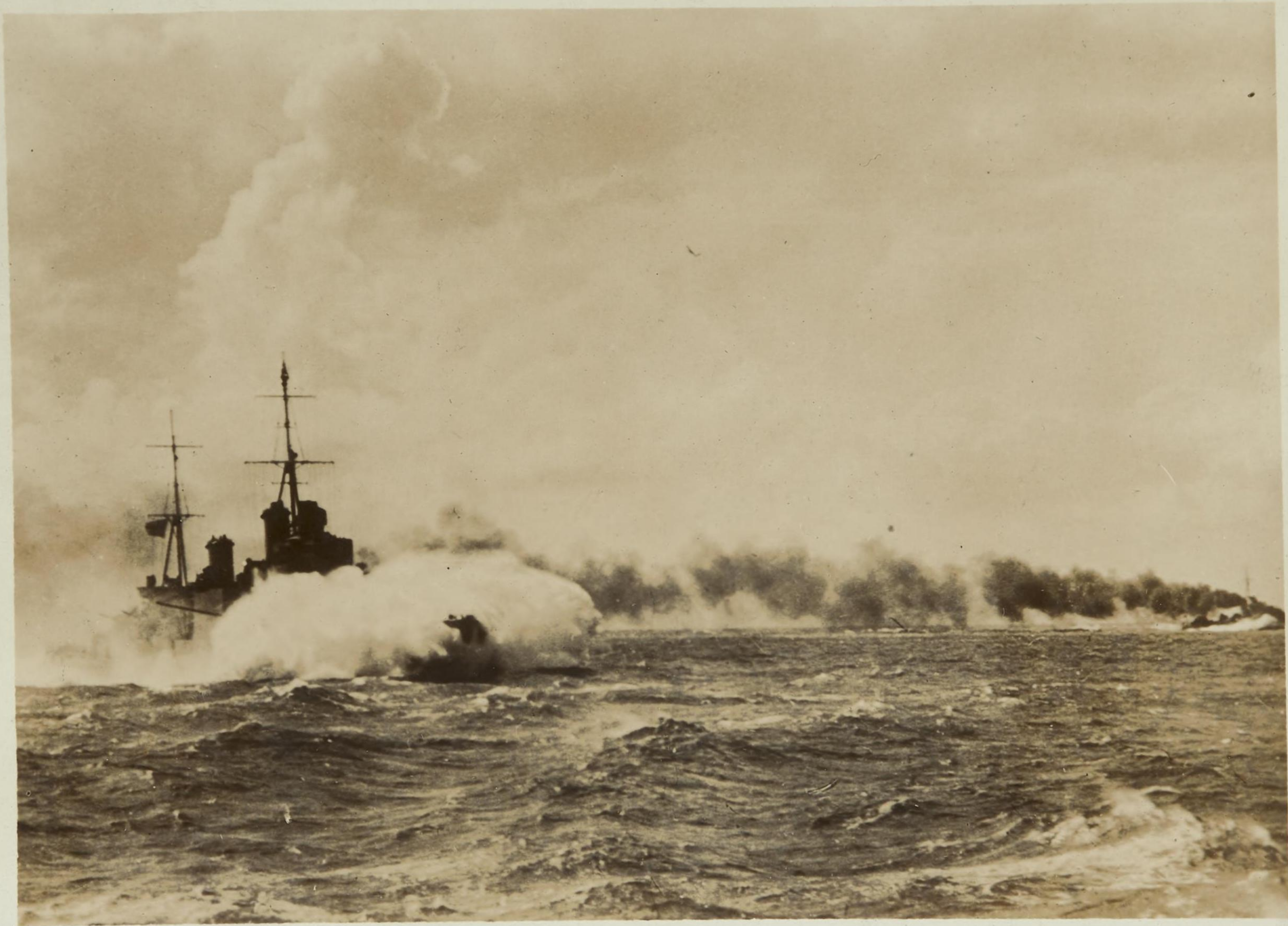
寫眞は

一、出動する英國巡洋艦隊

一、獨逸海軍の敷設せる水雷を爆破する英國

海軍掃海艇













◎東伏見愛婦總裁寫  
 隣保館授産所御巡覽  
 (東京)十四年十一月十七日  
 愛國婦人會總裁東伏見宮周子大妃殿下には  
 十七日午前十時五分本所區橋の愛婦隣保  
 館、向島區寺島町の愛婦向島授産所にお成  
 り遊ばされた。  
 御寫眞は隣保館にて謹寫



◎國婦、愛婦勤勞奉仕  
 官城外苑整備事業は市民の奉仕によつて續  
 けられてゐるが國防婦人會新橋分組の女性  
 二十名、京橋區愛國婦人會二十五名も加は  
 った。寫眞は於二重橋前



◎物資經濟講演會  
 戦時物資活用協會ではその皮切りの仕事と  
 して十七日午後一時から日比谷公會堂に首





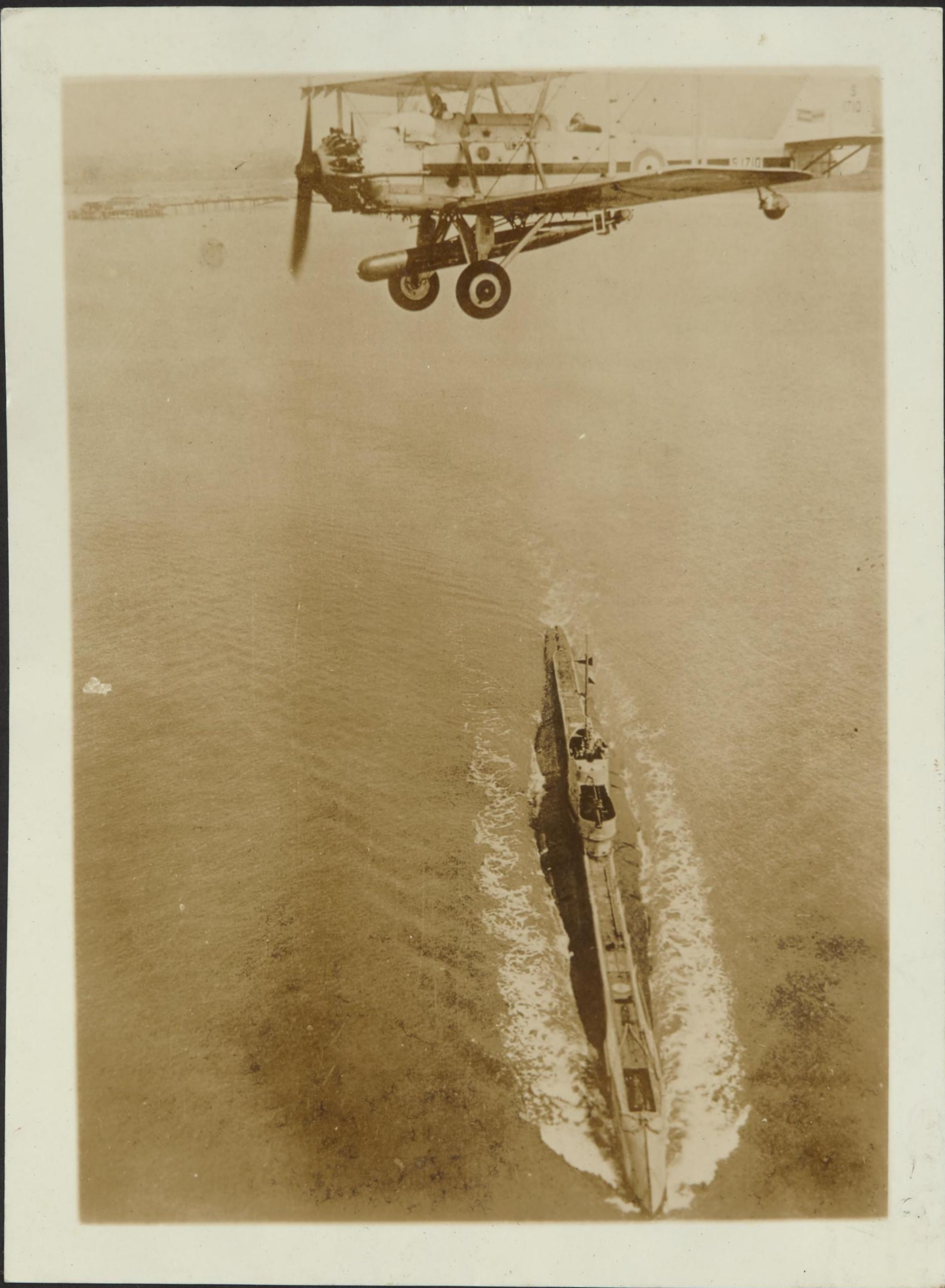
◎物資經濟講演會  
 日時 物資活用協會ではその皮切りの仕事と  
 して十七日午後一時から日比谷公會堂に首  
 相阿部さんをはじめ戦時下日本のお臺所を  
 切り盛りするお歴々の出馬を求めて物資經  
 濟大講演會を催した  
 為眞は阿部首相の講演





◎淺間丸かへる  
 十八日朝淺間丸か横濱へ着いた、ドイツか  
 ら歸朝の寺内大將一行、テレヴィジョン研  
 究家高柳賢次郎氏、法大教授野上豊一郎氏  
 夫妻、柳澤健一等書記官等多敷船客が歸朝  
 した。  
 歸朝は寺内大將(1)高柳教授(2)柳澤  
 一等書記官(3)





同日為真ニュース

十一月十八日

◎ドイツ海軍撃滅へ

(ロンドン) 發同題

一、ドーバー海峡) を警戒する英國潜水艦と  
海軍機



◎日米初の女弓試合

東京で初の日米女子弓試合―ヤンキー娘のブルムフィード・ハイスクール對上野高女―通信競技の一戦が十九日午前九時から芝恩賜公園に於て開かれた、この勝負は總計點の成績を通信によつて決める

寫眞は―白鉢巻姿も甲斐々々しい上野高女生徒

◎白衣の勇士對抗野球

白衣の勇士の厚生のため東京陸軍病院では十九日午前十時半から神宮球場に於て東京第一、第三病院の患者對抗野球戦を催した

寫眞は―スタンドの風景







◎青木藏相西下

青木藏相は十九日午前九時東京驛發西下  
寫眞は―東京驛の藏相

◎大日本青年黨大會

現状打破の旗印を高く掲げて青年に呼びかけ  
てゐる大日本青年黨では十九日午前九時から  
日比谷公會堂に第三回全國大會を開催した  
寫眞はその大會









◎義宮様興津へ  
（東京）二十四年十一月二十日  
義宮様には廿日午前九時五分宮城御出門、  
同十五分東京驛發の普通列車にて午後一時、  
八分興津驛御着、獨樂莊に入らせられた  
御寫眞は東京驛にて謹爲



◎ 蘇州中將歸還  
 徐州城壁一番乗りの武勳を樹てさらに中支  
 戦線からソ連國境に幾多蘇々たる武勳を  
 した蘇州立兵中將は廿日午前九時四十分東  
 京歸着列車で暗れの帝都入りをした  
 爲眞は於東京驛





◎ソ聯大使信任状捧呈  
 新任ソヴェト聯邦特命全權大使コンスタン  
 テイン・スメタイニ氏は廿日午前十時半  
 吉川式部官の迎引を受け随員と共に宮内省  
 差廻しの自動車にて二重橋正門より宮中  
 に参内し十一時鳳凰間に於て天皇陛下に謁  
 見仰付けられ信任状並に前任大使の解任状  
 を捧呈、引續き夫人同伴桐の間にて参進皇  
 陛下に謁見仰付けられ着任の挨拶を言上退  
 下した。寫眞はソ聯大使館にて







◎大本營設置二周年  
 支那事變の全面的活大に伴ひ統帥上の完璧  
 を期して昭和十二年十一月廿日大本營が設  
 置されてから早くも二年今日廿日その輝か  
 しい記念日を迎へて大本營陸軍部では正午  
 長くも閑院參謀總長宮殿下を迎へ奉り露田  
 參謀次長以下陸軍部高等官職員一同が參謀  
 本部食堂に集合冷酒を飲んで記念の乾杯を  
 終つた。御寫眞は閑院總長宮殿下の御祝辭  
 (御左は秋父宮殿下)





① 日本醫師會總會  
 現行醫藥制度を根本的に改める厚生省の醫  
 藥制度調査會の幹事案をめぐつて過般厚生  
 當局と日本醫師會との間に意見の對立を  
 てる折柄日本醫師會側ではこの廿一、二  
 日の兩日神田の醫師會館に第廿三回總會を  
 開き種々協議した  
 眞は會長北島博士の挨拶





◎全國女子青年團員の淨き奉仕  
大日本聯合女子青年團を縣代表四十名は夫  
々神饌米二俵宛を擧げて上京、廿日本部で  
講習、廿一、二兩日は明治神宮、精國神社  
で獻奉告を行つた。爲眞は明治神宮にて



◎阿部中將戦死

(東京)十四年十一月廿一日

(陸軍省發表)廿一日正午)

陸軍中將阿部規秀は察南山地帯に據る敵を

掃蕩中十一月七日河北省、上庄子(易縣西

方約五十キロ)附近戦鬪に於いて壯烈なる

戦死を遂げたり

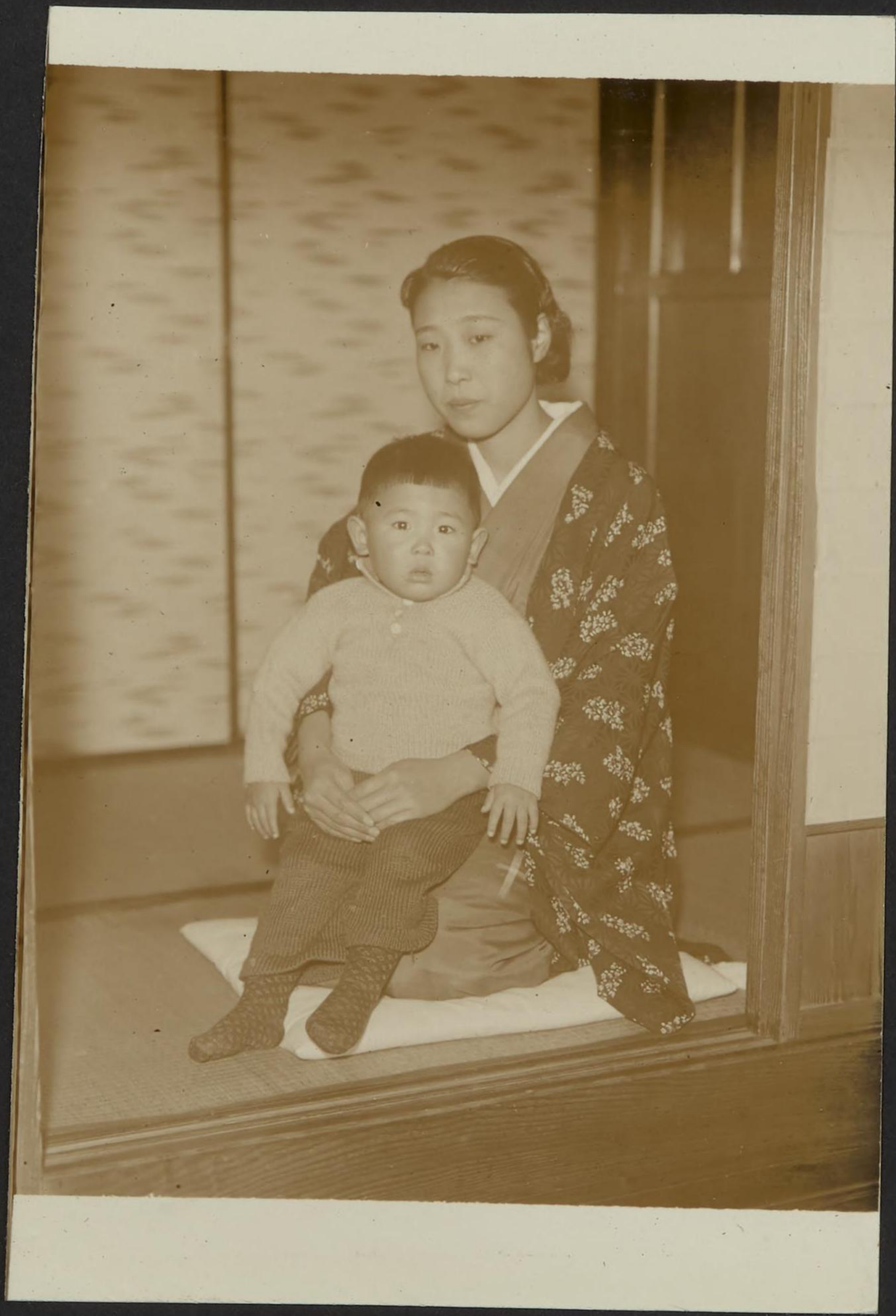
爲眞は阿部中將と阿部中將の家庭夫人リッ

子さん、令嬢チエ子さん









◎照國丸英東岸で爆沈  
（東京）十四年十一月廿二日  
日本郵船照國丸は廿一日午後英東岸で爆沈  
した（同船至急報）  
寫眞は憂色に閉された郵船本社  
一、傷ける岩崎書記留守宅（静枝夫人）  
二、（三）さん）





一、照國丸を語る奥野前船長（平服）  
一、松倉船長（制服着帽）と同留守宅（ア  
イ子夫人、梶子さんと親戚の松倉昌一  
中佐）





◎結核予防展の光榮  
 (東京)十四年十一月二十二日  
 令旨奉体結核予防展覽會は廿三日から丸の  
 内東京商工獎勵館で開會、体育御獎勵の有  
 難き思召に依り皇后陛下、皇太子殿下を始  
 め奉り御直官様が日常御愛用の御運動用具  
 を御貸下になつた  
 寫眞は予防展にて





◎音楽六十周年記念式  
 (東京)十四年十一月廿三日  
 上野の東京音楽学校では廿三日午前九時か  
 らその創立六十周年記念式が朝昂官憲子女  
 王殿下の台座を仰ぎ河原田文相始め音楽監  
 係者多敷列席の下に舉行された。ついで同  
 校教職員並生徒による洋樂、邦樂の記念演  
 奏が行はれた。  
 眞は御左より三人目御成の朝香官憲子女  
 王殿下、四人目河原田文相(上)奎校生徒記念  
 歌合唱(下)



◎首相町田總裁に入閣交渉  
 (東京) 十四年十一月廿三日  
 阿部首相は町田民政黨總裁に入閣交渉のため廿三日午前十一時半込復町の私邸に町田總裁を訪問、閣僚補充の理由を述べ同總裁の入閣を懇請した  
 寫眞は町田邸にて



◎國際學友懇親會  
 開始在京密國人學生





◎ 國際學友懇親會  
 國際學友會館の寄宿生始め在京各國人學生  
 の懇親會が廿二日午後四時より山下の幸  
 樂で開かれた、出席者は日本側が帝國教育  
 會大島專務理事、矢田部元タイ國公使等と  
 全世界十五ヶ國から集つた男女留學生六十  
 余名、日本文化探求のひと筋に繋がれて仲  
 好くスキ焼の鍋を圍み習ひ覺えた日本語で  
 歡をつくした。  
 寫眞は懇親會





◎町田總裁首相訪問  
一東京一十四年十一月廿四日  
民政黨町田總裁は廿四日午前九時西大久保  
の私邸に河部首相を訪問、入閣の懇請に對  
する正式回答をなした  
高眞は首相私邸を辭する町田總裁